3．藤沢山後遺跡発掘調査報告書

―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

例言

1．本編はケイアイスター不動産株式会社が実施する宅地造成事業に伴う、土浦市藤沢字山後1153番78に所在する藤沢山後遺跡の発掘調査報告である。

2．発掘調査は、事業者より重機等の提供を受け、土浦市教育委員会が実施した。調査期間は令和２（2020）年３月25日から３月31日まで、調査面積は約43.5㎡である。

3．発掘調査は亀井翼（上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員）が担当し、比毛君男（同学芸員）が補助した。報告書の執筆は亀井が行い、小屋亮太（同令和２年度会計年度任用職員）が補助した。

4．発掘調査参加者

亀井翼、比毛君男、福田和彦、萩谷良太、鬼脇正臣

5．整理作業は、調査終了後の令和２年４月から令和２年６月まで実施した。

6．本遺跡調査に関する資料は、すべて上高津貝塚ふるさと歴史の広場にて保管している。なお遺物の記録や整理、保管に際して「FYU１」の略号を使用している。

１．調査に至る経緯と経過

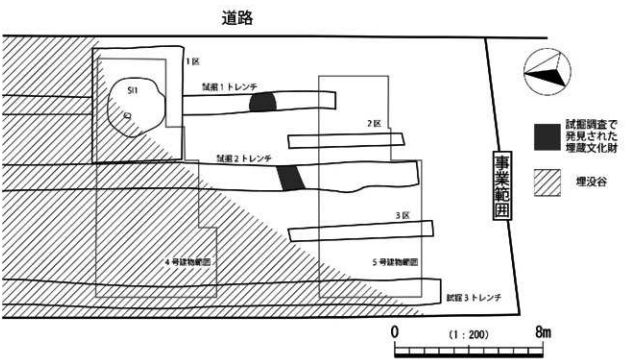
当調査はケイアイスター不動産株式会社が実施する宅地造成事業に伴うものである。令和元年12月、事業者より土浦市教育委員会文化生涯学習課に当事業計画における埋蔵文化財の取扱について照会がなされた。事業地が周知の遺跡である藤沢山後遺跡（土浦市遺跡番号466-124）に該当するため、事業者と市教育委員会との間で協議し、試掘確認調査を実施することで合意した。令和元年12月27日、事業者より埋蔵文化財試掘確認調査依頼が提出され、令和２年１月16日に確認調査を実施した。その結果、事業地の大部分は黒色土が厚く堆積する埋没谷であり、遺構は発見されなかったが、事業地南端の２区画についてはローム層が認められ、縄文時代を中心とする埋蔵文化財が発見された。この結果を受けて今後の取扱を協議したところ、事業地全体に現在の地表面から50cm 程度の盛土をするものの、建売住宅の基礎に深い杭を打つため、南端２区画の住宅部分の埋蔵文化財については盛土保存が困難であることが明らかとなった。そこで、南端の２区画のうち建物範囲内において発掘調査を行うことで合意を得た。

第１図　遺跡の位置
（１/25,000　常陸藤沢使用、網掛けが想定される谷）

文化財保護法に基づく第93条の届出は、令和２年１月21日に茨城県教育員会に進達し、３月17日付文第3806号で発掘調査を実施するように県から通知がなされた。同日、市教育委員会と事業者による、埋蔵文化財の保存と発掘調査に関する協定を締結した。

発掘調査は令和２年３月24日から開始し、文化財保護法第99条に基づいて、同日付土教委発第414号にて、茨城県教育委員会に発掘調査の報告を行った。調査は３月31日まで実施し、発掘調査終了確認を４月１日付土教委発第460-６号にて依頼した。茨城県教育委員会は４月24日付文第265号にて調査終了を確認した。埋蔵物

第２図　事業地の位置



第３図　藤沢山後遺跡　調査区全体図

発見届は４月１日付で土浦警察署に提出し、４月16日付文第159号にて文化財と認定された。発掘調査終了後は、令和２年６月まで整理作業を実施した。

２．遺跡の環境と層序

藤沢山後遺跡は桜川左岸の新治台地上に立地する。標高は約27m 程度、調査区の現況は畑地であった。当遺跡は縄文時代（中期）、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺跡として登録されており、今回が初めての発掘調査である。確認調査の結果、黒色の土壌が厚く堆積する埋没谷が、事業地を横断して存在することが明らかとなった。藤沢山後遺跡の西側を谷頭として、東に伸びる谷の一部であ

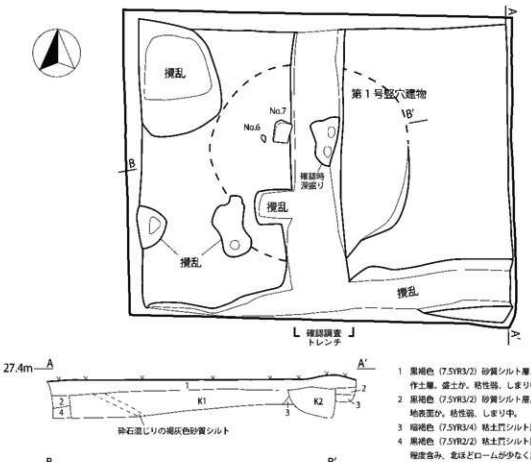
ると思われる（第１図）。調査区は南端２区画の建物範囲のうち、４号棟建物に５×６ｍの１区、５号棟に１×６ｍの２区、１×7.5ｍの３区を設定した（第２図、第３図）。２区、３区は試掘確認調査でトレンチが入らなかった部分を先行して調査したものだが、遺構が発見されなかったことから、５号棟建物範囲については調査完了とした。

１区東壁において層序を確認した（第４図）。調査区中央では攪乱により不明瞭であったが、南端では暗褐色粘土質シルトからなる関東ローム層（３層）の上位に、本来の表土層と思われる砂質シルトからなる土壌（２層）が堆積、発達し、最上位には舗装等に使われる砕石を含む作土層（１層）が認められた。一方、調査区北側では関東ローム層は認められず、黒褐色のわずかに砂混じり粘土質シルト層からなる谷の埋土（４層）の上に、２層、１層が堆積している状況が認められた。４層は北に向かって深くなることが確認調査で確認されており、後述する第１号竪穴建物はちょうど台地の縁辺に構築されている。

３．発見された遺構と遺物

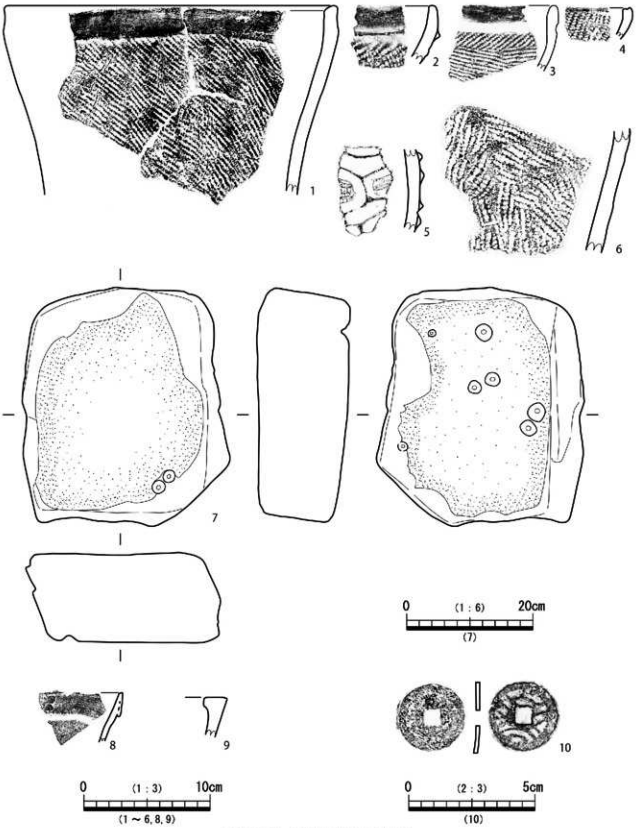
本調査で発見されたのは縄文時代の竪穴建物１軒である。

第１号竪穴建物（SI１：第４図）



1　黒褐色（7.5YR3/2）砂質シルト層。Φ3～5cm の砕石を含む作土層。盛土か。粘性弱、しまり中。
2　黒褐色（7.5YR3/2）砂質シルト層。砕石を含まない。本来の地表面か。粘性弱、しまり中。
3　暗褐色（7.5YR3/4）粘土質シルト層。関東ローム層。
4　黒褐色（7.5YR2/2）粘土質シルト層。ロームを 50%～15% 程度含み、北ほどロームが少なく黒みが強い。谷の埋土。粘性中、しまり弱。
K1 攪乱。砕石を含む褐灰色（7.5YR4/1）砂質シルトとロームが互層をなし、淘汰が悪い。
K2 攪乱。褐灰色（7.5YR4/1）の砕石混じり砂質シルトとロームが混ざったもの、淘汰が悪く近年のゴミが混ざる。

第４図　藤沢山後遺跡　第１号竪穴建物



藤沢第５図　藤沢山後遺跡出土遺物

規模　依存状況が悪いものの、直径３m 程度の円形を呈する。
壁　東側でわずかに立ち上がりが認められたものの、不明瞭である。
床　自然地形の傾斜に従って、わずかに北が低く南が高いが、硬化面は認められず不明瞭であった。
柱穴・炉　ともに確認されなかった。建物中央やや北西寄りに、大型の台石（第５図７）が認められた。後述するように台石は被熱しており、炉として使用された可能性もある。ただし、台石の周辺に焼土は認められなかった。
覆土　埋没谷の埋土との区別が困難であった。
遺物（第５図）　縄文時代中期を中心とする遺物が出土した。１～３は口縁部に無文帯を持つ深鉢型土器で加曽利Ｅ４式。１、２は無文帯と胴部文様帯が微隆起線文で区画され、単節 LR 縄文が施される。３は無文帯の区画が沈線でなされ、方向を違えて単節 LR 縄文が施される。４は口唇部にわずかな凹みが施され、地文は縦位の単節 RL 縄文。５は隆帯による区画と縄文の充填がみられる胴部片で、他の土器より古手と思われる。６は様々な方向から単節 RL 縄文が施文された胴部片。７は大型の台石で、竪穴建物の中央付近で検出されたものである。発見時に上を向いていた部分（実測図表面）はごくわずかに凹んでおり、石皿として利用された可能性もある。表面に２か所、裏面に７か所の凹部が認められるが、凹部表面が滑らかであることから敲打ではなく棒状工具の錐揉み回転によって作られていると思われる。石材は東城寺などに産出する変成岩（雲母片岩）で、被熱により赤変劣化している。長さ37.2cm、幅30.6cm、厚さ13.8cm、重量は約33kg である。

８～10は混入した遺物である。８は折り返し口縁とハケ目が認められる土師器で、古墳時代前期のものであろう。９は中世の内耳鍋の口縁部片。10は古銭で、文字は劣化により読み取れないものの、文様から寛永通宝の波銭（明和～安政年間）であろう。
所見　出土遺物から縄文時代中期後葉の竪穴建物跡と考えられる。

４．まとめ

今回の調査では、縄文時代中期後葉の竪穴建物１軒が検出された。加曽利Ｅ４式土器の出土は市内では稀であり、遺存状態は悪いものの、当該期の遺構として貴重な例である。また、凹みのある大型台石の出土も特筆される。台石に認められた凹みは敲打というよりは、錐状工具で穿孔したものに見える。こうした凹みの用途として、石器が片手で持てる大きさ（凹石）の場合、火錐杵の上端を押さえる道具との想定が古くからなされている（鳥居1896）。一方、大型の場合（蜂巣石、多孔石）はそのような使用はできないため、敲打によって生じる凹みを再現した、呪術的なものであるとの見解がある（能登1978）。今回出土した台石の凹みが、発火に関連したものか、呪術的なものか、あるいは堅果類を割る際の受け皿であったのかは不明であるが、同様の凹みが施された石器は神立遺跡第１次調査などで出土しており、今後も注意していきたい。

引用文献

鳥居龍蔵1896「発火用紐錐ニ就テノ二事実」『東京人類学雑誌』第126号　506-514頁　東京人類学会
能登　健1978「縄文時代の凹穴に関する覚書」『信濃』第30巻第４号　278-283頁
土浦市教育委員会編2018『神立遺跡』土浦市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	かみたかつかいづかふるさとれきしのひろばねんぽう		
書名	上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報　第26号　―2019（令和元）年度―		
副書名	藤沢山後遺跡発掘調査報告書		
編集者名	亀井　翼	著者名	亀井　翼
編集機関	上高津貝塚ふるさと歴史の広場		
所在地	〒300-0811　茨城県土浦市上高津1843　TEL 029-826-7111		
発行機関	土浦市教育委員会		
所在地	〒300-0036　茨城県土浦市大和町９番２号　TEL 029-826-1111（代）		
発行年月日	西暦2020年（令和２年）９月30日		

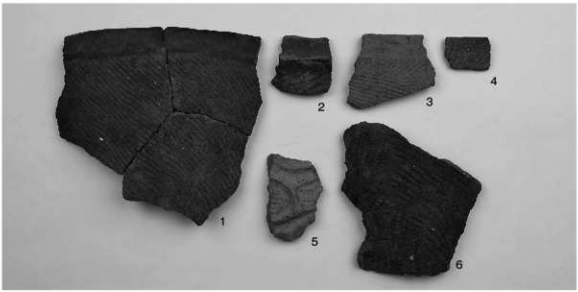
所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		経緯度		調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
藤沢山後遺跡（ふじさわやまうしろ）	土浦市（つちうらし）藤沢（ふじさわ）字山後（あざやまうしろ）1153番78	466	124	36度7分41.6秒	140度9分20.8秒	2020年3月24日～3月31日	43.5㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
藤沢山後遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物	縄文土器、石器、土師器、土師質土器、古銭	縄文時代中期後葉（加曽利Ｅ４式）の竪穴建物。大型の台石が出土。

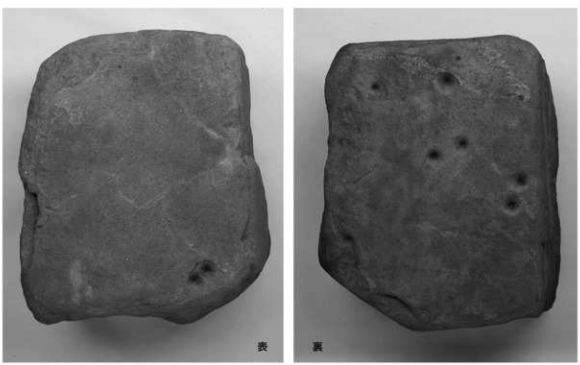
1 区完掘状況

遺物出土状況（北から）

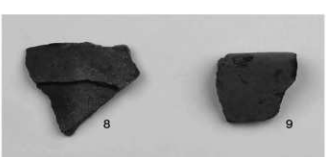
1 区東壁セクション



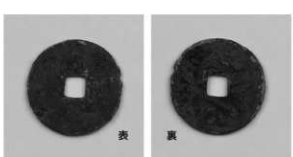
第１号竪穴建物出土遺物（１～６）



第１号竪穴建物出土遺物（７）



第１号竪穴建物出土遺物（８，９）



第１号竪穴建物出土遺物（10）